

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調査

様式1

No. 0502014

政策目標	2 めくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 雄武町高齢者等の冬の生活支援事業実施要綱
基本施策	7 高齢者支援の充実	事業優先度	A	
単位施策	2 生活支援の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	高齢者等の冬の生活支援事業	見直し年度	平成21年度	
事業期間	平成21年度～平成24年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	全対象世帯への配布		#N/A	
事業目標	全対象世帯への助成	ハード/ソフト 事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	2	関係例規・法令名	1 ⇒	
住民協働		関係個別計画名		

全体計画 事業内容		平成 20 年度 事業内容	平成 21 年度 事業内容	平成 22 年度 事業内容	平成 23 年度 事業内容	平成 24 年度 事業内容	
計 画 内 容	低所得世帯に対し、冬期間における増嵩経費の経済的支援として、1世帯あたり15,000円の助成を行う。 助成対象: 灯油・石炭・薪・暖房器具 助成方法: 対象世帯に購入券を交付する。		灯油購入費の助成 330世帯×15,000円=4,950,000円	灯油購入費等の助成	灯油購入費等の助成	灯油購入費等の助成	
	事業費(千円)	17,300	0	4,950	4,950	3,700	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	3,500		3,500			
	道支出金	1,500			500	500	
	地方債	6,400				3,200	
	その他	0				3,200	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	14,168	0	3,690	3,448	3,533	
	財源内訳						
	国庫支出金	3,500		3,500			
	道支出金	1,425			500	425	
	地方債	8,900			2,900	3,100	
関 連 事 項	(特定財源の詳細等) 道支出金 ・地域づくり総合補助金 地方債 ・過疎対策事業債ソフト分	(実施内容等) 【評価・実績】	(実施内容等) 在宅で生活する低所得世帯に対し、厳寒期における暖房用燃料に使用する灯油購入費の一部助成(1世帯当たり15千円) 交付世帯 250世帯 交付750枚 利用738枚 ※前年度評価結果	(実施内容等) 在宅で生活する低所得世帯に対し、厳寒期における暖房用燃料や冬期用品購入費の一部助成(1世帯当たり15千円) 交付世帯 237世帯 交付3,555枚 利用3,448枚 ※前年度評価結果 A-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) 在宅で生活する低所得世帯に対し、厳寒期における暖房用燃料や冬期用品購入費の一部助成(1世帯当たり15千円) 交付世帯 240世帯 交付3,600枚 利用3,533枚 ※前年度評価結果 A-継続/内容の見直し・変更	(実施内容等) 在宅で生活する低所得世帯に対し、厳寒期における暖房用燃料や冬期用品購入費の一部助成(1世帯当たり15千円) 交付世帯 237世帯 交付3,555枚 利用3,497枚 ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続無し)	年度目標値		330世帯	全対象世帯への助成	全対象世帯への助成	
		年度達成率	#DIV/0!		75%	70%	95%
		全体達成率	0%		21%	41%	62%
		事業費(千円)					82%

事業名	高齢者等の冬の生活支援事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	山崎佳之
		評価者 作成者 職氏名	社会福祉係長	磯田昭次

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者等の低所得世帯	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	対象世帯への助成券交付率、利用率	
【抱える課題やニーズは】	近年の燃料価格高騰で、低所得世帯における冬期間の生活を圧迫しており、燃料のみならず、冬期用品の確保支援も求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	暖房用燃料、冬用衣料、防寒靴等の購入費の一部を助成し、低所得世帯における冬期間の生活安定を目指す。	① 助成券を交付した世帯数 ÷ 交付対象想定世帯数 = 対象世帯への交付率	目標年度	平成24年度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	低所得世帯の冬期間の生活安定を図り、健やかに暮らせる地域づくりを目指す。		目標値	246世帯
			実績値	237世帯
			達成度	96.3%
		② 利用された助成券の枚数 ÷ 交付した助成券の枚数 = 助成券の利用率	目標年度	平成24年度
			目標値	3555枚
			実績値	3497枚
			達成度	98.4%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成券の交付	申請のあった町民税非課税の高齢者世帯等に対し、15千円分の助成券を交付した。		
	冬期用品等購入費の助成	町内各小売店からの請求に基づき、助成券使用分を支払った。		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	冬期間の燃料代が生活費を圧迫している昨今において、低所得世帯に対し、燃料のみならず冬期用品等の購入費用の一部を助成することは、増高する生活費を抑制して生活安定に繋がるため必要性は高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	冬期間における当該世帯の増高する生活費を支援し、生活安定の一助に繋がった。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	申請から決定までの期間を2週間以内とし、事務の効率化・迅速化に努めている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	助成に際しては、一定の基準を設けていることから、公平と判断する。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
冬期間における低所得世帯の生活安定の一助に繋がりを、燃料だけでなく、品目を複数とすることで、利用者の選択肢も増え、今後も計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続/現状維持		
低所得世帯の冬期間の生活の安定を図るためには、継続して事業を実施していく必要がある。		

※展開方向の区分